



## 幼保小連携を強化します

明けましておめでとうございます。例年になく暖かいお正月でした。令和2年、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックの年となりました。子どもたちにとっても、一生記憶に残る年になることと思います。

さて、今年は子年。十二支最初の干支です。気持ちを新たに、未経験の新しいことを始めてみたいものです。とりわけさくら組の子どもたち。今年は小学校入学を迎えます。夢と希望を膨らませ、それぞれの小学校の門をくぐってくれることを期待しています。

小学校では、入学したばかりの1年生が、少しずつ小学校生活に慣れていくために、「スタートカリキュラム」を各校独自に編成し、取り組んでいます。例えば、入学後の数日間は下校時刻を早め、教師が各方面に分かれて下校指導をしたり、新しい友達と仲良くなるためのゲームを取り入れたり、学校の約束を一つずつ教えていったりします。みんながだんだん慣れていった頃に、初めて机の上に筆箱やノートを置いて、平仮名等の学習に入っていくわけです。

一方、幼稚園や保育園でも、年長児に「アプローチカリキュラム」を取り入れ、小学校に向けた準備を進めます。特に、給食の準備や学習時の姿勢、挨拶や返事など、少し練習が必要なものは事前に指導をしていくことによって自信をつけさせます。

おうちでも、お子様が就学に期待と憧れをもてるよう、一緒になってわくわくしましょう。また、過度なプレッシャーを感じさせることがないように、言動に配慮をお願いします。さらに、親子で通学路を歩いたり、交通ルールを確認したりするなど、おうちでできる準備をしてあげてください。

平成29年3月、新しい「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の3法令が同時に告示されました。今回の改訂では、幼稚園、保育園、認定こども園すべてに共通する「幼児教育の在り方」が明確にされるとともに、「乳幼児期からの発達と学びの連続性」、「小学校教育との接続の在り方」が明示されました。また、新たに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が具体的に示され、これらを小学校においても確実に共有し、幼児期の学びの成果を生かした学校教育が行われるよう、連携の一層の強化が求められています。

さくら組の子どもたちは、すでに自律と協力ができ、大人に頼らず自分たちで物事を解決しようとする力をつけています。また、教師の話を中心して聞き、理解する力も育っています。頼りになる年長さんです。しかし、入学後は新しい環境に慣れるまで時間もかかり、不安も少なからずあるはず。ましてや園の仲間が各校に分散するために、当初は心細く感じることでしょう。

幼稚園や保育園と小学校との連携は、子ども一人ひとりの発達や個性を正しく伝え、小学校生活に適應できるように支えていくために必要なことです。と同時に、幼稚園で育ててきた力を小学校でも発揮できるようにしてあげるためにも連携の意味があるわけです。

ご存知かと思いますが、私は2年前まで小学校に勤めていました。お陰で彦島の各小学校にも頼れる知人がいます。卒園児が小学校でしっかり力を発揮できるような環境を整えてもらうために、継続的に情報交換を行い、実効性のある連携強化を図りたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

(園長 寺本 明生)

